



創立：1980年(昭和55年)1月10日
 会長：岩田 修司
 幹事：堀 慎治
 クラブ広報委員長：湯澤 勇生
 例会日：毎週木曜日PM12:30～
 会場：ヒルトン名古屋

事務局：460-0008
 名古屋市中区栄1丁目3-3
 ヒルトン名古屋910号
 TEL：052-211-3803
 FAX：052-211-2623
 MAIL：2760.nagoya@mizuho-rc.jp
 URL：http://www.mizuho-rc.jp/

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

2014～2015年度
 国際ロータリーのテーマ
 Light up Rotary
 ロータリーに輝きを

2014～2015年度
 国際ロータリー第2760地区
 ガバナーのテーマ
 集まるう・語るう・楽しもう

2014～2014年度
 名古屋瑞穂ロータリー会長のテーマ
 感謝の気持ちを持って、
 ロータリーライフを楽しもう

第1660回例会

～会員増強および拡大月間～
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2014年8月21日(木) 晴 第7回

司会：鈴木淑久会場委員
 斉唱：「我等の生業」

副会長挨拶

内田久利副会長

今更自己紹介でもないかと思いますが、ロータリー一歴は平成10年入会で、そろそろ出席免除の時期になっております。ただ、7-8年前にホームクラブ30%未満の出席率の時期があり、(退会勧告?)この年はカウントしてもらえていないか1年削られているかもしれないと心配しております。



昨年の副会長は、ユニークな挨拶を12回されましたが、私はじゃべるのが苦手で、岩田会長から何回か挨拶を頼まれ、即「0」と応えましたが、れんが家で一杯飲まされて4回引き受けてしまった次第です。

本業の他に、ぎふ美濃GCを皆様方に応援を頂きながら細々と経営しております。

近頃は忘れられている気がしますが、東日本大震災プロアマチャリティーゴルフ大会も計10回開催し、約600万円程寄付させて頂いております。

明日8月22日は第1回の記念すべき小中学生対象のぎふ美濃ジュニア大会を開催する予定です。男女110名のエントリーを頂いて楽しみな大会だと思っております。

この開催に関しましては中部ゴルフ連盟の重鎮であります、泉さんに大変なご尽力を頂きました。この席をお借りし、厚くお礼を申し上げまして挨拶を終わります。

ニコボックス

田中宏ニコボックス副委員長

- ・26日は誕生日です。 **広瀬 弘幸さん**
- ・8月18日は家内の誕生日でした。70歳になりました。 **岩田 吉廣さん**
- ・今日は会長あいさつを副会長の内田さんをお願いしました。宜しくお願いします。 **岩田 修司さん**
- ・広島は大変な惨事でした。心よりお見舞い申し上げます。 **内田 久利さん**
- ・残暑お見舞い申し上げます。 **岩本 成郎さん**
- ・9月7日(日)に芸術劇場コンサートホールで、モーツァルトのレクイエムを歌います。もしご興味があればチケットを差上げます。 **平野 好道さん**
- ・娘の全国大会の応援に香川まで行ってきました。全国の高い壁の前に予選敗退でしたが、娘にとっていい経験になりました。 **近藤 茂弘さん**
- ・卓話者として初めて登壇致します。 **高村 博三さん**
- ・高村さん、卓話楽しみにしています。 **鈴木 淑久さん 湯澤 信雄さん**
- ・高村先輩、卓話楽しみにしています。 **山口 哲司さん 田中 宏さん**

出席報告

田中宏出席副委員長

会員63名 出席38名 (出席計算人数45名)

出席率 71.7%

8月 7日は補填により 94.1%

幹事報告

堀慎治幹事

- ・本日18:00より、第1回R情報・研修委員会懇親会を蔵人厨「ねのひ」にて行います。
- ・8月28(木)18:00より、ヒルトン名古屋4階「桜の間」にてなごやか例会を行います。

会員卓話

高村博三さん

生涯の友を求めて

卓話を致すのはクラブに入って初めてのことでございます。実は私はこの瑞穂クラブ設立にあたり、親クラブである南RCから転出したキーメン(鈴木俊雄・岡本健治・春日良平・高村博三)の一人でもありますし、12代会長も経験しておりますので、毎週挨拶をしたこともあります。



今日は、「生涯の友を求めて」という題でお話をしていきたいと思っております。最初、「どんなテーマですか?」と聞かれた時には「私のロータリー」と簡単に言ってしまったのですが、「私のロータリー」なんて失礼なことはいえないと思い、話の中にはロータリーの事も出てまいります、いってみたら「私」と「ロータリー」ということです。時間に限りがあるので、掻い摘まんでお話するかもしれませんが、ご容赦ください。

「生涯の友を求めて」というのはやはり、私が小学生の頃は親子の関係は上手くいっていたのですが、父親と食事をするのは1週間に1度くらいでした。昭和10年の生まれなので、過去の第二次世界大戦を経験しておりますし、自分の自宅に焼夷弾が落ちて燃えるのも見ております。あれは夢にも出て飛び起きたくらいショッキングな出来事でした。そんなことを交えながらお話をさせて頂きたいと思っております。私の生い立ちでどのように友達を見つけてきたのかという内容になるかと思っております。

父親は高村三郎という名前、後妻の子です。高村家は熱田神宮の北側で仕事をしていました。当時は車はないので馬車を使っていました。兄が二人いましたが共に病弱で父が先頭にたって働き、とても苦労したそうです。25歳を迎え結婚しました。相手は私の母になるのですが、岐阜の大野町というところの出身です。高等女学校に通っておりまして父とは違い、才媛でした。母の父は小学校の校長を務めており、しつけが厳しかったようです。18歳で嫁ぎ、私を産んだのはその翌年です。

南区に住んでおりましたので、当時は草原だらけでした。私が小学校に通うとなると大変なことでした。幸い、大江駅の近くでしたので小学校1年生から乗車券を胸にぶら下げて道徳駅の近くの豊田小学校に通いました。2年間通って、3年生からは昭和区小桜町に転居しました。自宅の近く(50m南)に桜花学園がありましたが、そ

シドニー大会のハイライト

こが昭和20年終戦の年の1月に空爆にあいました。空爆とはいつでも爆弾ではなく、焼夷弾が上から降ってきました。私も防空壕の中にいたのですが、普通は夜の襲撃が多かったのですが昼間でした。すぐ防空壕の中に避難していたのですが、なんとなく様子に異変を感じ、飛行機の音が聞こえなくなってすぐに様子を見に行ったら、自分の家から炎が上がっており全焼しておりました。そこで母の実家である岐阜本巣郡の方へ居を移しました。3つ目の大野小学校です。しかし父は名古屋へ通勤していたため、3月にもう少し名古屋まで近い岐阜市に引越しました。そこで通った小学校は4つ目の小学校(華陽小学校)で、4、5年生の間を過ごしました。6年間のうちに4校も小学校が変わるのは大変なことで、子どもながらに思ったことは「友達が出来ない」ということです。顔見知りになったと思ったらすぐ転校でしたので、大変寂しい思いをしておりました。その後は岐阜で高校卒業までの期間を過ごしておりますので順調に中学校、高校と進学しました。しかしその様な背景があったので友達が欲しいと思って深く付き合う様なことはありませんでした。

大学進学にあたって東京の立教大学に通うことになり、そちらでは今でも付き合いしている友達が10人程いて、やっと友達ができたなと思います。大学の運動部というのは商売のことで自動車部というものに入ってしまった。本当は山岳スキー部に入りたかったのですが、2年前に名古屋の愛大の生徒7、8人が雪山で遭難した事件があり、母から猛反対があり自動車部を選びました。そこではけっこう楽しい青春時代をおくりました。1年生の時に勉強だからと先輩の鞆持ちとしてレースに参加しました。大阪の毎日新聞社を出発し、東京の日比谷公園までをはしりました。これはスピードレースではなくスタートの時に指定速度を渡され、平均速度40km/hで走ります。順番にスタートすると、途中で10~15箇所位チェックポイントがあり、チェックポイントまでの間に何分かかったかで減点があったりします。それを考えながら走るようなラリーはけっこう多かったです。大阪発もあれば、名古屋から東京までのレースもありました。名古屋から東京のレースは三菱自動車のjeepが作られていたので、それを40台程を東京まで持っていくという話でした。全国の大学の自動車部は40くらいありましたが、各校エコノミーランを兼ねて1台ずつ運んでいきました。

その他、私が危険だと思ったのは名古屋から東京まで50ccのバイクで行ったことです。もう一人と交代で走るのですが何キロで走っているのか平均速度が分からないため、場所と時間で計算しました。幸い、自動車部に在籍中はバイクラリーとエコランの2つに私が乗った車が優勝しました。

そんなことで当然ながら大学時代の友人や高校の友人とはまだお付き合いがあります。その友達はせっかくできた友達だからもっと大事にしようと思い、頼まれれば幹事も引き受けるというのが信条です。

次いで社会人になったのが昭和33年です。家業も順調になっていた頃でした。当時は研修制度も何もなく、私の場合は4月になり仕事をマスターしなければと現場へ出ましたが見様見真似でトラックの助手をしました。入社して3日目に1個100kgくらいある鉄の塊を運んでいました。ちょうど日曜日だったので、降ろし先に係の人が居ないというので運転手と私の2人で降ろすことになりました。クレーンも昔はスイッチ式ではなく、エンジンと滑車をつかった危険なものでした。作業中に滑車に手を巻き込んでしまい、そのため私には左の親指がありません。この一件で会社では即安全のための教育をすることになりました。これを成功させ形作るのには10年くらいかかりましたが、今では全員が安全教育を受けてから現場に出る様になりました。私の怪我が発端で、会社の安全成績はとても良い状態できています。

そういう中で、色んな出会いもありましたが、私が一生懸命やっているのは昭和44年から個人会員となっている経済同友会と、それとロータリークラブです。ロータリークラブの方にはいろいろとご指導頂いておりますし、チャーターメンバーとして恥ずかしくない様に頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

6月4日に閉幕したロータリー国際大会。4日間にわたりシドニーの街をにぎわせた今大会は、3つの世界記録を残しただけでなく、ポリオ撲滅を大きく後押しするものとなりました。

大会直前、5月30日に行われたポリオ撲滅支援のためのシドニーのハーバーブリッジ登頂イベントに、世界中から集まった340人が参加。2011年に人気司会者のオプラ・ウィンフリーさんがファンとともに打ち立てた記録を塗り替え、世界新記録を打ち立てました。さらに、橋に登った参加者らが278カ国の国旗を掲げ、「一つの橋の上に掲げられた国旗の数 (most flags flown on a bridge)」でギネスに認定されました。

世界記録はこれにとどまらず、ロータリーの公共奉仕広告によるポリオ撲滅認識向上キャンペーン、「世界最大のCM」が「写真による最大の認識向上キャンペーン (largest photo awareness campaign)」としてギネス世界記録に。このCMには170カ国から10万人以上が写真で参加し、その中には、ノーベル平和賞受賞者のデズモンド・ツツ大司教、ビル・ゲイツ、アーチャー・パンジャビ、ジャッキー・チェンら有名人も含まれています。

これらの快挙に続き、さらに大きいニュースが大会を盛り上げました。6月1日、オーストラリアのトニー・アボット首相がロータリーのポリオ撲滅キャンペーンに1億ドルの支援を提供することを発表。さらにその2日後には、Chrome Group 副会長のエメカ氏が、ロータリー財団にポリオ撲滅を目的とした100万ドルを寄付することを発表しました。ナイジェリアでロータリーのポリオプラス大使を務めるエメカ氏は、「大勢の友人やクラスメートがポリオの犠牲になった」という自身の体験を紹介した上で、ポリオ撲滅への固い決意について語りました。

今大会ではポリオ撲滅に大きな注目が集まった一方で、それ以外のロータリーの取り組みにも関心が注がれました。シドニー大会の主なハイライトは以下の通りです。

- ・ **世界の水問題に挑む**：大会直前の5月30日に開かれた今年の世界水サミットでは、他団体との協力が焦点が当てられました。水と衛生の分野の世界的専門家も出席したこのサミットでは、民間セクター、NGO、政府とのパートナーシップを通じて効果的なプロジェクトを実施することの重要性が強調されました。
- ・ **平和の推進**：元ロータリー平和フェローで、国際労働機関(ILO)のアフリカ地域担当者であるンウィラ・チガガさんが講演し、性別にかかわらず、すべての人に平等な仕事の機会を与えることの必要性について訴えました。

来週の近藤ガバナー公式訪問予定

8月25日(月)	名古屋空港RC
8月26日(火)	豊川宝飯RC
8月27日(水)	東海RC
8月28日(木)	田原RC
8月29日(金)	予定なし

例会のご案内

- **今週の行事** **8月28日(木) なごやか例会**
 時 間：18:00~20:00
 場 所：ヒルトン名古屋4F「桜の間」
- **次週の卓話** **9月4日(木)**
 会員卓話：宮澤伸光さん
 テ ー マ：イニシエーションスピーチ
- **次々週卓話** **9月11日(木)**
 卓話講師：小牧市文化財保護委員 入谷哲夫さん
 テ ー マ：小牧山城の佐久間信盛